

大分類 2 では、大分類 2 全体を対象としたポスターセッションが、3 月 11 日の 16～18 時に行われた。今回のセッションでは 80 件ものポスター講演があり、二会場設けられていたポスター会場のうちのひとつで、全てのパネルを用いて行われた。また、学生の講演が非常に多く見られた。全般的に、蛍光体を用いた放射線検出に関する研究が 7 割程度であり、多様な系を用いた放射線誘起蛍光特性と、それを利用した線量計測に関する講演が多く見受けられた。また、今回のポスター講演では、半導体検出器におけるキャリア移動過程の解析など、研究対象の広がりが顕著にみられた。本会の Poster Award に 1 件の講演が選ばれ、また放射線分科会学生ポスター賞に 8 件の講演 (<https://annex.jsap.or.jp/radiation/prize3.html>) が選ばれた。

中分類 2.1 では、3 月 11 日の午前に 4 件、および午後 10 件の口頭発表が行われた。固体飛跡検出器やプラスチックシンチレータなどの有機材料開発やその動作機序の解明、無機シンチレータや線量計素子の開発、半導体検出器母材の新規開発など、検出器材料開発における対象物質の多様化が顕著であった。また、ガス検出器における基礎的な定数の評価について、あるいは重粒子線のエネルギー付与に関するシミュレーション技術の開発などについても成果報告がなされた。

2.2 検出器開発では固体飛跡検出器、半導体検出器、シンチレーション検出器などを用いた放射線計測技術、イメージング技術に関する発表が行われた。特に粒子線治療や核医学イメージングへの応用を目指した検出器開発に関する発表が多くなされた。また、加速器実験、放射光実験への応用を目指した検出器開発に関する発表がなされた。検出器開発から検出器システム開発まで広い範囲に渡る発表がなされた。特にコンプトンカメラ開発に関する発表が多数なされた。満席の会場で活発な議論がなされた。

中分類 2.3 では、3 月 9、10 日の二日にわたり計 28 件の口頭発表がなされた。3 月 9 日午前の 6 件の講演では X 線 CT に関わる新技術に関する報告があった。3 月 9 日午後の 16 件の講演では、レーザーコンプトンガンマ線や焦電結晶による X 線発生といった線源開発に加え、PET 装置・コンプトンカメラカメラの開発、レーザー分光に基づく放射性同位体計測等に関する報告があった。3 月 10 日午前の 6 件の講演では、月面での線量予測、X 線光学素子、陽電子による構造欠陥解析法に関する報告がされた。